

■ 2) 説明 5 点

▼行事名 秋のこどもの日「こどものまち」
▼団体名 子ども未来フォーラム実行委員会
▼開催開始年、主な開催期間 2002年の10月26日(土)・27日(日) /メディアテークからスタート。 2003年は10月18日(土)・19日(日)の2回 /演劇工房10box。 2004年は10月30日(土)・31日(日)の2回 /泉区中央市民センター。 2005年は11月5日(土)・6日(日)の2回 /演劇工房10box。 2006年は11月5日(日)の1回だけ /みどりの森幼稚園 ※午前9時半～午後4時
▼参加人数 定員(応募)として、1日あたり約150名程度(小学生のみ)。 大人はスタッフのみで、約百数十名(内、学生が100名ほど)。 午後3時頃に迎えに来る保護者を対象にした見学ツアーを実施、約50名。
▼特徴 開催場所としては、1回目を除き単独施設をほぼ貸し切る形で実施。したがって、敷地も含めて全てを「こどものまち」として使用しています。この5年間は仙台市との共催(こどものまち事業負担金:約百数十万円)で実施することで多くのこどもたちに参加をいただき、公の事業として認知されてきた経緯があります。 仙台の「こどものまち」の特徴は、1日だけの、パスポート(抽選応募による当選者)を持っているこどもだけが入国できる、特別なまちです(先住民=ボラ族を除いて、 <u>大人は入国できません</u>)。まちには、工房や神社、飲食店、デパート、民芸品屋、それに道場や碁会所のほか、市役所(観光局、ワケル局、管理局など)や銀行、郵便局のほか、こどもたちが自由に作る様々なお店屋さんが並びます。お金の単位は、フォーラム(30分単位で10フォーラム:おはじき1個が1フォーラム)。こどもたちがまちでの遊びに没頭できるよう、大人は黒子(ちょっとした変装をして)になって子どもの自主性の引き出し役に徹します。また、以前にこどものまちを体験し中学生になった子は、OBとしてスタッフ登録をされスタッフとして活動ができます。
▼準備(体制、期間) 毎年、実行委員会を組織。6月頃に広く市民に呼掛けをして実行委員(コアメンバー約10名にプラスα)を募ります。開催場所と期日についても、この頃に確定。夏休み前にその年の「こどものまち」のプロデューサーと概要を実行委員会で決定し、運営ボランティア約百名(多くは大学や専門学校に要請)を公募します。具体的な準備は9月からスタート。ボランティアへの説明会(2回程度)や開催チラシの作成・配布、参加者の公募などの作業が重なりながら進み、前日の準備会、そして当日(秋の2日間)を迎えます。